

# 精子を必要としない受精

オーストラリアの科学者が、精子に限らず身体のだの細胞からも得られる遺伝物質を使って卵子を受精させる方法を発見しました。その技術によって不妊症の夫婦が子どもを持てるようになるかもしれません。理論上はレズビアンのカップルが、父親を必要とせず女の赤ちゃんを産むことができるかもしれないということの意味して

います。女性は、男の子を作るのに必要な遺伝情報は持つてはいないのです。

その技術はメルボルンにあるモナシユ大学のオーリー・ラカム・カプラン博士によって開発されました。彼女は、彼女の研究チームが体細胞として知られる精子以外の体内の細胞を使って実験室培養でネズミの卵子の受精に成功することができたことをBBCに話しました。

現在までこの方法での受精は可能ではありませんでした。というのは、精子細胞には1組の染色体しかないのに、体細胞には2組の染色体があるからです。モナ

シユ大学の研究チームは、余分な染色体を取り除くために化学技術を使ったのです。

### 分離

これを行なうために、研究チームは通常の受精で行なわれる過程を模倣したのです。通常の受精においては、卵子にある2組の染色体は分離され、そのうちの1組が排出され、残りの1組に精子の1組との結合がまかせられます。しかしながら、さらに発育させるために母体に移されるまで胚が生存できるかどうかかわからないでしょう。



弱い子どもの側にたって物事を考える重要性が増々必要となるでしょう。

「母体に移されたあと、生きた健康な赤ん坊が生まれるかどうかを知らずにはさらに待たねばならないでしょう。6ヶ月から8ヶ月以内に答えが出て、この技術をさらに進め、そして臨床面において使用することが可能なものかどうかはわかるだろうと私は信じています。」

ラカム・カプラン博士は、無精子症や精子になる可能性のある胚芽細胞が無いという理由で子どもの持たない男性を助けるためにこの研究に取りかかったと話しました。しかし、彼女は、「理論的には、同じ胚を作るために女性の体細胞を使うことができます。したがって、生物学的に自分達の子どもを産みたいと願っている2人の女性は、その目的を達成するためにこの技術を使うことができるかもしれないでしょう。」と付け加えました。

しかしながら、発達という側面は、父方の遺伝子によって支配されているので、これは問題となるかもしれません。

### 革命的

受精の専門家ロバート・ウィン

ストン教授は田中の次のように話しました。「このことは実際、真正銘革命的で、可能性としては非常に重要な意味を持っています。この技術の真のメリットは精子のできない男性のためにあるのです。これまででは自分のクローンを作ることができる可能性があると言われられてきました。この技術のすばらしさは、それによってクローニングが全く不必要になるということです。これは実際、ずっと優れた技術で、倫理的にもずっと受け入れやすいものです。というのは二人の個体からの染色体を持つことになるからです。」

ウィンストン教授は、人がこの技術を使って自分のコピーを作ることとは理論上可能であるけれども、同一の人間の染色体を使用すれば、赤ん坊に遺伝的な欠陥が生じる危険性が大幅に増加することになると言っています。

胎児保護協会(SPLC)は、その技術に怒りを表しました。その協会のスポークスマンは、「胚を作り出すための新しい方法を広めることは、多くの人の目に、人間の価値を日用品にまでもますます降格させてしまうことになるのです。私たちは、子どもたちの利益は、両親を含めた全ての人の願いより優先されると信じています。私たちはこの種の技術の開発に一時停止を要求するつもりです。」と話しました。

# 僕の夢



二十世紀に入ってから今日まで、世界が戦争の恐怖から逃れたことなどなかった。世界中の人々が、第一次、第二次世界大戦によって多くのいのちが失われるのを見てきた。これらの戦争は、古くから異なる宗教、人種、文明間での争いに起因したものである。戦争を通じて、人は、「人類の最大の敵は人類である」ことに気付いたのだ。

しかし、中絶に関しては、男と女同士が激しく争ってお互いを殺し合うような敵意や憎しみなどない。中絶は、赤ん坊の姿が見えないことによる罪の意識の薄さという、潜在意識が引き起こす冷血な殺人行為だと思ふ。中絶する側の人間が、その行為の正当性を弁明できるのとは違い、赤ん坊には自分の意思を伝えるすべがない。

僕の夢、それは、人間の生命の尊厳が、世界中の人々に認められるようになることだ。みんなが、人間の生命を貴重なものであると認め、その意識を高く持つことで、人とは殺すのではなく守るべき存在だと思ふようになって欲しい。

僕の国では、ポート・アーサーの大虐殺で三十五人もの生命が暴力的に奪われたことに対して、国民全員心を傷めている。それなのに、世界では年間三千〜四千万人ものいのちが中絶によって失われている。世間は、無理やりの力を奪われる赤ん坊の声なき叫びに耳を傾けようとしていない。

みんなに聞きたい。「マーティン・ブライアントの犯した非人間的な行為と、医者として職業的なから人間を殺す行為と、殺人という意味でどんな違いがあるのか」と。

事実、ニューヨーク・タイムズに載っていた塩化カリウムで中絶している良心的な中絶医は、塩化カリウムを注入すると胎児の動きが激しくなるんです。むごたらしいことです。」と語っている。

実際の話、胎児を墮胎させるためのどんな手段も、すべて心ない非人間的な行為だと思ふ。中絶処置としてもっとも一般的なのは、吸引器による掻爬である。先端が鋭くなっている管を子宮に挿入する。キュレットのついた管が子宮に挿入されると、胎児の心拍数は一分あたり百四十から二百に急増

するぞうだ。胎児は、後ずさりしたり、激しく逃げまわるような動きを見せるらしい。侵入物を避けるように泳ぎまわるといふ。しかし、超音波モニターで確認されながらだと、逃げきれぬものではない。羊膜に穴が開けられると、胎児はもう動けなくなってしまう。吸引管の先のキュレットが胎児を切り刻み始めると、胎児は前後にもがくような動きをする。体は、頭を残して全て小さな肉片になるまでばらばらに切り刻まれる。頭部は、後で別の器具を使って碎き取り除く。中絶が行われると、僕達が体を切り刻まれる時に感じるであろう同じ痛みを胎児も感じるのだ。

僕が中絶に反発を感じるのは、人間のいのちを犠牲にしてまでお金をもつきたいという医者が大勢いることである。僕が産まれる前、母は、ある書類にサインを勧められたぞうだ。もし母が素直に同意したら、ペンと紙だけで僕の将来はなくなっていた。担当医が中絶を勧めたわけは、「出産によって健康を損ねるかもしれない」からだ。両親は同

意せず、僕は何の問題もなく産まれた。もし両親があっさりサインしていたら、僕も毎年奪われる多くのいのちの一つだった。声を聞かれることもなく、生涯手に入れることがなかった。ういのちを求めて、心の中で叫

んでいたかもしれない。この書き物をブルース・ダウの詩で終えようと思ふ。僕がうだったように、この詩が、読んだみんなの胸を打つことを願う。

ニコラス・ボーイズ  
(十七歳・オーストラリア人)

## 無実の魂

ブルース・ダウ

外を歩いたことも  
空を見たこともない。  
この体を優しく抱かれたことも  
この瞳をのぞきこまれたこともない。  
選ぶことも同意することもできず、  
運命を受け入れるだけだった。  
やって来たときも、  
去って行くときも、  
姿は見せず、  
姿を見せるには早すぎ、  
理解されずに過ぎ去った。

僕のいのちをつなぐものは信頼だけだった。  
血のつながりと同じくらい確かだと信じた。  
今、僕がいるのはごみ箱の中。  
泥と同じくらいどろどろにされて。

神のように人の運命を任されたその力は  
僕を葬り去るためにふるわれた。  
僕のことを想い出して  
いつかあなたが

「民族抹殺」について語るときは、  
自分の体を守るためと人は言う。  
そのため僕の体が犠牲にされた。  
すべてを無くしたのは僕だった。  
僕のことを想い出して。

今度あなたが太陽を、星を眺めるときは、  
僕も眺めてみたかった。  
でも一度もかなうことはなかった。



# 避妊にまつわる嘘

言葉巧みな操作は、醜い事実を隠すためによく使われる、有効かつさりげない手法である。

いつの時代も非情な人々は、自分たちが行った悪事を隠すための話術を用い、誤った論理を通してきた。もちろん現在も例外にあらず。中絶の権利支持層は、人々を言葉のトリックで操っているに他ならない。それはもつと本当に見事な魔法に近いトリックだ！ なにしろ中絶を消し去ってしまったのだから。もっとも殺すのをやめた訳でなく、軽妙な言葉遣いで消し去った訳だ。

『中絶』という単語を使うのをやめれば、人々はもう中絶が起こっていないと思ってくれるのではないか。中絶支持派は、そんな否定的希望を抱いている。そのうち中絶反対派も消え去ってくれるだろう。

まず、中絶の権利支持層に共通するのは『conception（妊娠）』という言葉を間違った使い方をしている点である。権威ある大辞典「American Heritage Dictionary」によると、『conception』とは「接合子の形成」「fertilization（受精）」とは「2つの配偶子が結合し接合子が形

成される」とそれぞれ定義されている。辞書の上では『conception』も『fertilization』も基本的には同じ意味である。だが中絶支持派にとっては違う。彼らは『conception』を『implantation（着床）』、受精卵が自然に子宮にたどり着くことと同じように、気軽に使いたいと思っている。

母親の卵子と父親の精子が結合すると、驚くべき出来事が起こる。新しい生命は両親からそれぞれ23本の染色体を受け継ぐ。その生命体には既に、性別・髪や瞳の色・肌の違い等々、人間の発達に関わる遺伝情報が詳細に伝えられている！ これらすべては受精の時点で起こる。着床の段階ではない。

中絶推進派は、なぜとも言葉のトリックを使いたがるのか。重要単語を再定義することで、何百万何千万もの女性達に向かって堂々と、バースコントロール薬、ノルプラント、デポ・プロヴェラ、その他の医薬品が中絶を引き起こさない、と嘘を伝えたいのだ。

真実は、医学界や製薬会社によれば、化学的バースコントロール方法は、十分中絶を引き起こす可能性があるし、実際に引き起こ

ている。なぜこんな欺瞞が成り立つのか。中絶肯定派にとって妊娠は今や着床と同義で、避妊は新しい受精卵が子宮に着床する前に有効な行為を指す。この定義によると、バースコントロール薬は「たどり着いた受精卵を子宮が受け入れにくくする」（ピル・メーカーの説明を引用）避妊効果があることになる。

バースコントロール薬は墮胎

薬としても働きうる。人の生命を絶つ殺人行為を『避妊』と偽った呼び方をしてる。

この見えすいた芝居はインターネット上でも見受けられ、緊急避妊情報を扱うウエブサイトでこんなQ&Aが出ていた。「緊急避妊法とは中絶したことになりませんか」に対する答「いいえ」で、次のようにごまかしている。

「医学界では、子宮に受精卵が着床した時点を妊娠の始まりと定義しています。着床は、受精後5〜7日後に起こります。緊急避妊法は着床の前に働き、女性

が既に妊娠してからではありませんが

科学的にも論理的にも、生命は着床ではなく受精に始まる。中絶反対派は、朝食後のコーヒーのように飲むピルや、バースコントロール薬、ノルプラント、デポ・プロヴェラ等の化学薬品によって小さな生命が、子宮に着床し発達し続けるチャンスを与えられず、滅ぼされていくのを心配している。

これは、女性がぜひとも知っておくべきことである。

スザンヌ・アブラ

## 蔓延するHIVに医師が懸念（インド）

インドの医師達が増え続けるHIV症例に懸念を表明し、医療機関は満場一致でAIDSを

伝染病として公表せざるをえなくなつたとタイムズ・オブ・インディア紙は報じている。「裕福な人も貧しい人も同様にウイルスの犠牲となつている」と報道され、専門家によれば、この傾向は「不特定多数の人との性交渉や婚前交渉に加え、親が子どもにセックスの正しい価値を十分に教えていない」結果であると言

う。「インド人はセックスに関して保守的である」という認識は社会

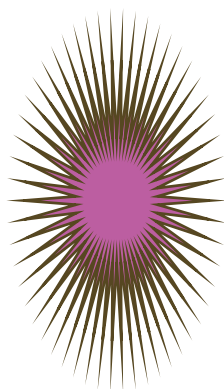
的迷信」とヴィネイ・クルカルニ医師は述べ、高い確率の近親相姦や夫婦間外セックスおよび若い世代の考え方の変化などが問題を悪化させていると言う。パラグ・パンディト医師は、夫が妻にウイルスを持ち込んでおり、AIDS検査を結婚前に受ける事によって避けられる「大家族の悲劇」と述べた。クルカルニ氏はインド社会は「まだAIDSの恐ろしさに目覚めていない」と言及し、「家族の一員がAIDSに感染した場合は素晴らしいサポートをするものの、病気を予防する段階でそれだけの切迫

感と懸念が欠けていた」と付け加えた。

彼は、「責任のある性交渉に対する態度と愛や責任といった永続的な価値を持ち続けることを促進するために相当な努力が必要である」と締めくくった。

タイムズ・オブ・インディア紙

2月4日付



# レイプの傷が中絶で癒されるか

一般に、「プロライフ」を自認する人でも、レイプで妊娠した場合は例外と考えていることが多いものです。

一方、中絶推進派は、中絶を正当化するための最適のケースとして、レイプを取り上げます。彼らはどうやって、このかわいそうな被害者にこのまま子どもを生めというのかと主張します。

それに対するプロライフ派の典型的な反論は、確かに被害者の女性には同情すべきだが、子どもにも生きる権利があることを考えなければならぬというものではないでしょうか。

ところで、ここで注意すべきことは、双方の議論がある一つの推定に基づいてなされているということとです。その推定とは、中絶がレイプされた女性の心の傷を癒すものであり、被害者の女性はみな中絶を希望しているというものです。中絶推進派はこれをスローガンとして掲げていますし、プロライフ派は、それを事実として認めたと上で、その他の要素の方がより重要であると反論しているのです。

しかし一体、この推定は正し

いのでしょうか？驚いたことに、政府や大学や大会社がありとあらゆる調査を行っているというのに、この問題についてはたった一つの小さな調査結果が残っているだけでした。おそらく、調べなくても結果は分かりきっていると、誰もが考えたからでしょう。

その調査とは、一九七九年、レイプ問題専門カウンセラーのサンドラ・マコーン博士が、レイプで妊娠した37人の女性に行ったものでした。（おそらく、博士はこれ以上の数の女性を探し出せなかったでしょう。それほどレイプによる妊娠は、実のところ極めて少ないのです。）対象となった37人のうち、4人については調査未完のまま終わっています。残った33人のうち、28人は子どもを産むことを望み、5人は中絶を選びました。つまり、レイプによって妊娠した被害者のうち、15%のみが中絶を希望したということになります。

質問に対して、被害者の多くは、中絶もまた暴力行為のひとつと考えると答えています。ある女性は、「赤ん坊のいのち

を奪うことの方が、産むことより精神的苦痛が大きい」としています。

また、自分自身の希望と子どもの生きる権利との葛藤で悩むと答える人はほとんどいませんでした。むしろ、中絶を決める最大の要因は、両親や恋人など、他からの圧力であると多くの人が答えています。

レイプ事件については、他にはない独特の世間の反応があります。人々は犯人より被害者に非があるかのように責め、被害者自らが犯罪を招いたと考えるのです。こうして夫や恋人が離れ、友人や親戚も遠ざかり、被害者自身も周囲と同じような考えに陥ってしまいます。往々にして、レイプ被害に遭った女性は、

急いで家に帰り、シャワーを浴びるなど、さまざまな、身を清める「ための象徴的な行為を行います。被害者が罪悪感と羞恥を感じるため、レイプは通報されることが最も少ない犯罪の一つなのです。

数年前、フロリダ州のあるレイプ事件の裁判で、加害者側の弁護士が、被害者が短いスカートをはいていたために犯人を刺しました。また、さらにひどいケースでは、ある裁判官が、レイプ犯の住む地域の女性が挑発的な服装や態度で自らレイプを誘発しているとして、犯人を釈放しているのです。

たとえ被害者が挑発的な服装をしたり、夜一人で危険な地域を歩いて、レイプを「誘発」したとしても、レイプ犯と罪を分かち合うことには到底なりません。

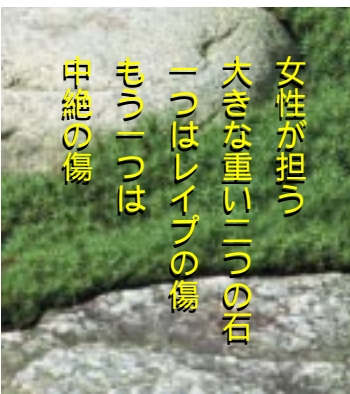
例えば、キーをつけたまま車から離れて、それを誰かに盗まれたとします。それはバカなことをしたとみんな言うでしょうが、そんなことをするのは盗まれても「当然」だとか、あなたと犯人を同罪だなどと言う人はいない

でしょう。また、そんないい車を放置していたのは、あなたが盗まれることを「望んだ」のだから、犯人は無罪放免となるべきだ、などと言われることもありません。しかし、レイプに限って人々は明らかにそういう反応を示すのです。

ですから、レイプで妊娠した被害者が直面する精神的な問題とは、子どもがレイプを「思い出させる」ことではないようです。むしろ、妊娠が明らかになれば、レイプを受けた「罪を告白」しなければならぬことにあるのです。（同様に、生まれて来る子どもも、レイプによってできた子と責められます。普通の赤ん坊ではなく、「レイプの所産」であり、拭い去るべき汚点とされるのです。）

しかし、中絶はレイプ問題の解決にはなりません。それはただ、被害者を新たな加害者に変えるだけです。レイプ被害に遭った後、中絶したジャッキー・Bは、後に次のように言っています。「レイプの記憶が薄れた後も」

(5 ページへ)



女性が担う

大きな重い二つの石

一つはレイプの傷

もう一つは

中絶の傷

も、中絶の後味の悪さが永く残ることに、私はすぐに気づきました。空しさと恐怖に怯える日々が続きました。こんなふう

す。「今でも私は、レイプで妊娠したあの子を愛することはできなかつたと思います。でも、もしこの世に生まれてきたら、あの子を愛してくれる人はたくさんいたでしょう。レイプ犯は私の

のです。私は、レイプによって奪われたものが被害者の人生の「ほんの一瞬」だなどと言うつも

る可能性はさらに高くなります。その後、妊娠を全うすればそれ

なくならたり、またはその他の理由で二度と妊娠しなければ、危険性は30%まで高くなります。

# 中絶の致命的な後遺症：乳癌

## 概要

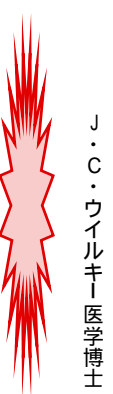
一度妊娠すると、女性の乳房の構造は永久に変わってしまいます。妊娠する前は、乳腺細胞が未熟で未発達なため、母乳を作

胞が急速に成長して枝分かれした乳管を形成し、乳腺細胞が母乳を作る

安定な状態は過ぎ、乳腺細胞が成熟し安定します。

最初の赤ちゃんを産んだ女性には、乳癌になる可能性が半分になります。

中絶による死亡者数  
中絶産業は、中絶で母親が死亡する割合は10万人に一人、つまり毎年16人と主張して



# プロ・ライフ資料紹介

【403】ビデオ

## 『ピリングス・メソッド』

(自然な家族計画の方法)

(日本語 30分 ¥7,000)

この『日本プロ・ライフ・ニュース』を毎月読んで下さっている高槻の渡辺厚美さんに、故郷へ帰る途中新大阪駅で待ちあわせ、初めてお目にかかったのに時間も忘れて話し込んだのはこのピリングス法のことでした。

彼女はそれまで、避妊器具を使わないカトリック女性が家族計画をどのようにやっているのか、また、なぜ避妊器具を使わないのか不思議に思っていたと言います。

古くから、日本には基礎体温を計って、自分のリズムを見つめる方法がありますが、これは第一子の時にはだいたい大丈夫ですが、すでに一人小さな子どもがいる時は非常に難しいものとなります。と言いますのは、母親が、目がさめる前に子どもに泣かれてあやしたり、食べ物を準備したりすれば、その後にもその体温は無効だからです。基礎体温は、目をさましてすぐに計る必要があるからです。

それにくらべ、このピリングス法は、母親の体調の悪さで熱っぽい時も、小さな子どもに泣かれ突然起こされた時も、頸管粘液で調べるので無効にはなりません。女性が感じる湿った感じと乾いた感じを感じ取り、粘液の伸びを調べれば良いのです。獣医も動物の交尾の適当な時期を調べるのに、粘液の伸びを調べこの方法を使って排卵の時期を確認しています。

このビデオでは、女性の身体を大地に見立て、大地が雨で湿った時と乾いた時があり、いつ種をまけば芽が出るのか、表面が乾いているように見えても内部はまだ湿っていれば芽が出ることもあると教えています。

この方法を使って、夫婦はいつ子どもをほしいか、そして次の子をいつにするのか話し合いながら決定していけば、夫婦間のコミュニケーションの助けにもなります。

なぜ、避妊器具を使わないのか、「使ってはいけない」と

**【511】赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅**

**【515】経口避妊薬：ピル**

注文：	1 - - - - - 5	1部 = ¥100
	6 - - - - - 20	1部 = ¥75
フルカラー	21 - - - 999	1部 = ¥50
	1000 - - 以上	1部 = ¥35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

言われたからだけではなく、それだけではとても弱く、何日も生きることのできない、そんないのちの基まで大切にするためという自己流の説明をして別れて後、彼女からこのビデオと本(自然な家族計画)それにミニソフィアエース(コンピューターで基礎体温と粘液の状態など記録できる優れたもの)の3点セットを何回か注文して頂き、今、彼女はそれを広めてくれています。

中国でもこの方法は取り入れられていると聞きました。女性の体中に備わっている乾いた感じ、湿った感じの体内リズムを感じて記録し、女性の身体に優しい家族計画の方法を是非若い方々にこのビデオを見て、学び取って頂きたいと思います。

### 【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文 ..... 無料 ..... + 郵送料

### 【カラー・パンフレット】

[201] 生か死 ..... + 郵送料  
 [202] 第二の処女生 ..... + 郵送料  
 [203] デート ..... + 郵送料  
 [204] どうするの? ..... + 郵送料  
 [205] "NO" という技術 ..... + 郵送料  
 [206] テイーンの出産コントロール ..... + 郵送料  
 [207] パージンの瀬戸際 ..... + 郵送料  
 [208] してしまいましたか ..... + 郵送料  
 [209] 親権限と「10代の性」 ..... + 郵送料  
 [210] 貞節のすすめ ..... + 郵送料  
 [211] 中絶行為は女性を解放しない ..... + 郵送料

### 【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」 .....30円 + 郵送料  
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン .....200円 + 郵送料  
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス .....500円 + 郵送料  
 [305] 胎児の人権宣言カード .....30枚=100円 + 郵送料  
 [306] ミニソフィア Ace エース(税別) .....7980円 + 郵送料

### 【ビデオ+本・日本語】

[401] 沈黙の叫び ... (VHS/Beta) .....7000 + 郵送料  
 [403] ピリングス・メソッド ..... (VHS/Beta) .....7000 + 郵送料  
 [404] いのちーおくりもの ..... (VHS) .....13000 + 郵送料  
 [407] 命美しいもの = one&only ..... (VHS) .....20000 + 郵送料  
 [409] 聞こえる? 天使の鼓動 ..... (VHS) .....6000 + 郵送料  
 [410] ピル先進国・英国からの警告 ... (VHS) .....15000 + 郵送料  
 [411] (コース・セミナー) エイズ時代の性倫理 ... (VHS) .....3800 + 郵送料  
 [500] (本) 生命問題に関する ... (カトリックの教え) .....2987 + 郵送料  
 [501] (本) 自然な家族計画 ... (ピリングス・メソッド) .....1000 + 郵送料  
 [503] (本) プロ・ライフの旅 .....300 + 郵送料  
 [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ .....1200 + 郵送料  
 [505] (本) いのちをみつめて .....500 + 郵送料  
 [506] (本) 命あるすべてのものに (マザー・テレサ) .....660 + 郵送料  
 [507] (本) 私の生命を奪わないで .....2300 + 郵送料  
 [508] (本) いのちの福音 .....1500 + 郵送料  
 [509] (本) 小さき生命のために .....1300 + 郵送料  
 [511] (本) 赤ちゃん：最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料  
 [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて .....300 + 郵送料  
 [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント .....500 + 郵送料  
 [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう .....300 + 郵送料  
 [515] (本) 経口避妊薬：ピル .....100 + 郵送料  
 [516] (本) いのちの福音と教育 .....1470 + 郵送料  
 [517] (本) フマネ・ヴィテ .....300 + 郵送料

### (本) フマネ・ヴィテ

1 ~ ~ 30 1部 = 250円  
 31 ~ ~ 100 1部 = 200円  
 101 ~ ~ 以上 1部 = 150円

### パンフレット申し込み

1 ~ ~ 5 1部 = 35円  
 6 ~ ~ 100 1部 = 25円  
 101 ~ ~ 500 1部 = 20円  
 501 ~ ~ 以上 1部 = 15円

は組み  
 自由合  
 ですせ

# 十代の性 (25)

問い：もし親が赤ちゃんが欲しくなかったら、中絶は許されると思うのですがどうでしょう？

答え：もしあなたの両親が、あなたがひどい問題児だからもう要らないと思っただけなら、あなたは殺されてもいいですか？他の誰かがあなたを欲しいか欲しくないかで、あなたのいのちが左右されてもいいのですか？どの子どもも望まれて生まれてくるべきだ、とい

## Q&A

平和を破壊するいちばん恐ろしいものは墮胎です。なぜなら、子どもを殺すのはその子の母親自身だからです。…若い女性達は両親を恐れ、世間の人々を恐れるあまりに、墮胎することがよくあります。でも彼女たちを助けなければなりません。(マザー・テレサ)

うのは聞こえはいいですし、理想としてはそうあるべきです。けれど現実の世の中に当てはめてみると、どうなるでしょう。要らない子どもは殺されてもいいということでしょうか？

妊娠を望まないことと子どもを望まないことは、同じことではありません。多くの親は、そのつもりはなかったのに赤ちゃんが出来たと知ると、始めはびっくりして狼狽します。そして多くの母親は、「つわり」、これはお母さんの身体がお腹の中の新しいのちに慣れようとして起ることなのですが、つわりがあるとこれまでの日常生活に影響が出て、妊娠しなければよかった、と思うでしょう。しかし、妊娠が終わって出産すると、ほとんどのこのような望まれなかった妊娠は、望まれた子どもと変わり、両親に心から愛されるようになるのです。

ビデオ『沈黙の叫び』を見て

### もっとと深い問題

人間が妊娠するということはとてもすごいことだと感じた。だが子どもを殺してしまう親もいる。今回、初めて中絶の方法を見てとても残酷だと思った。中絶という言葉は何度も聞いたことがあるけれども、このような方法で行なっている事は知らなかった。正直、ビデオを見ていて気分が悪くなった。

ビデオの中で中絶をしまい、赤ちゃんの事を思って泣いていた母親が何人も出てきた。あんなに悲しいのになぜ中絶をしたのか。あの母親たちも簡単に中絶をしようと思ったのでは無く、悩んだ結果中絶をしたのだと思う。

中絶はしたらいけないとは思いますが、この一言では、説明のしようが無いと思う。中絶をしなければならぬ理由があるからこそ、中絶をしたのだと思う。妊娠中絶の問題は「したらいけない」ではなく、もっとと深い問題のようになっている。

H・Kさん(高三生)

# 日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

〒780-0062

高知市新本町一丁目7-31

電話/Fax: 088-873-3619

e-mail: prolife@i-kochi.or.jp

http://www.japan-lifeissues.net

For English Speaking People / evening: Tel/Fax: 088-843-0406 Email: nvt56n@ps.inforiyoma.or.jp

## 会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千元 一千元

無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さいのちを大切に育みましょう。

## 事務所時間:

月一金 10:00 - 17:00

土曜日 休み

日曜日 休み

## 御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

現在口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

## 事務所便り

『父の日』がある六月。今月号のページにショッキングな記事を書けることになりました。精子なしでも受胎が可能な社会が来ようとしています。それは父親がなくても家庭をつくれるのかということ。私たちに問いかけています。ここに大阪人間科学大学人間科学部長の服部祥子さんの言葉があります。その一部を『父の日』にちなんで皆様に贈られたいと思います。

子どもが思春期の修羅場を迎えると、どんなに豊かで、かしこい母親でも、一人で全部を受け止められない。困惑して、「もう私にはわかりません。あなたやってください」と父親に言い渡す。ところが、それまで子育てに消極的に参加していたのでは、準備性が足りない。思春期以前に、どう子どもとかわつたかが問われる。思春期には選択肢がたくさんあることが子どもには必要です。母の後ろに父がいるのではなく、父と母、別々の人格と向き合うことができれば、子どもの心も広がっていく。

あらゆる生物がそうであるように、次の世代を産み育て、生命をつないでいくことが、人間の基本的な生きる目的である。思春期を迎え、挫折した子を目の前にすると、親も人生の挫折を味わう。そのとき、子どもが幼いころから、主体的に、密度高くかわつていけば、いろいろ問題はあってもこの子が生きていく、その喜びをもって、私の人生を良しとしよう、と思うことができる。

「産む性とは別の、産まぬ性としての、育てる喜びがあるはず。そのあたたかさが人生の秋の季節を迎えたとき、最後に人間を支えてくれる」。年老いて、葉も花も落ち、一本の裸の木になった時、その内側にひたひたと満ちてくるものがどれだけあるか、それが問われる。

日本プロ・ライフ・ムーブメント